

# 各管内(公立)の状況の見方

(管内) 1 小学校について (1) 教科に関する調査 学習指導要領の領域等別平均正答率

各管内の教科に関する調査の国語Aの平均正答率を示しています。

全道の平均正答率と比較した各管内の傾向を文章で示しています。

学習指導要領の領域ごとの平均正答率を、全道と管内を並べて示しています。

教科		全道との比較				
国語	A	全体(77.3)	「話すこと・聞くこと」「言語事項」は道と同様、「書くこと」「読むこと」は道とほぼ同様(下位)の傾向が見られる。			
		学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
		全道平均	75.7	76.8	83.2	76.7
	管内	75.0	75.7	82.1	76.3	
B	全体(34.7)	「読むこと」は道と同様、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」は道とほぼ同様(下位)の傾向が見られる。				

## 5年間の推移 (は全道と比較した全国)

全道との比較	国語A					国語B					算数A					算数B				
	H19	H20	H21	H22	H23	H19	H20	H21	H22	H23	H19	H20	H21	H22	H23	H19	H20	H21	H22	H23
相当高い																				
高い																				
やや高い																				
ほぼ同様(上位)																				
全道と同様																				
ほぼ同様(下位)																				
やや低い																				
低い																				
相当低い																				

これまで5年間の各管内の平均正答率を、全道の平均正答率と比較して示しています。(H19~22) (H23)は全道と比較した管内、は全道と比較した全国の平均正答率を示しています。

各管内の調査結果を分析し、重点的に取り組む必要のある課題を示しています。

「全道との比較」の記載に当たっては、全道との平均正答率の差を次のように表しています。

- ・道と同様・・・1ポイント未満の範囲内
- ・道とほぼ同様・・・1ポイント以上3ポイント未満の範囲内で、道より高いもの「ほぼ同様(上位)」道より低いもの「ほぼ同様(下位)」
- ・道よりやや高い(低い)・・・3ポイント以上、5ポイント未満の範囲内
- ・道より高い(低い)・・・5ポイント以上、7ポイント未満の範囲内
- ・道より相当高い(低い)・・・7ポイント以上の範囲

## 教科についての課題

### <国語A>

「書くこと」における「文と文、段落と段落との接続関係が整うように適切な言葉をそれぞれ選択する」設問4から、文と文との意味のつながりや文章全体における段落の役割を考えながら、接続関係を整えて書くことの平均正答率が、道と比較し1.7ポイント低いことが明らかとなっている。

【解答状況】 第2の形式段落の一文めに示された目標と二文めに示されたその目標を実現するための方法をつなぐ言葉として、「そのために」(正答)以外の言葉を選択している児童の割合が、道と比較し0.2ポイント高い。

### 【課題】

- ・文と文、段落と段落との接続関係を整え、論理的な文章を書くこと
- ・自分が考えていることを明確にすることだけでなく、相手が書き手の考えを理解できるように文章全体の構成を工夫すること

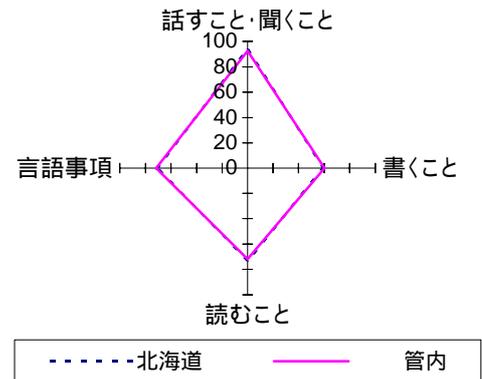
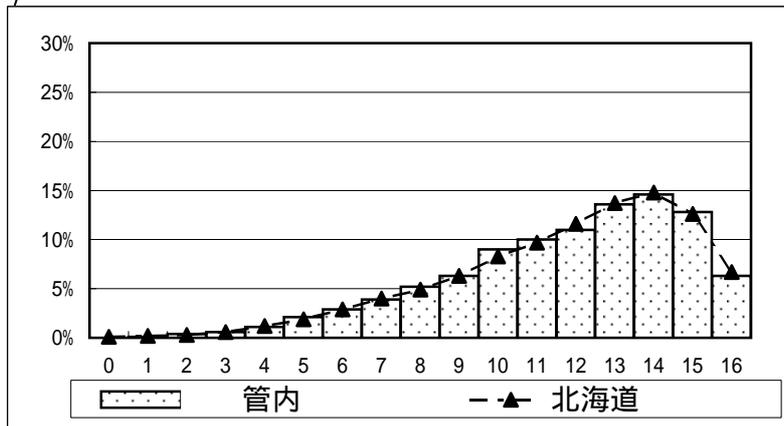
管内の正答数の分布をグラフで示しています。

教科に関する調査は、小学校の国語A、国語B、算数A、算数B、中学校の国語A、国語B、数学A、数学Bごとに、各管内の状況を全道と比較しながら表示しています。

教科に関する調査に関するグラフ

【小学校国語A】

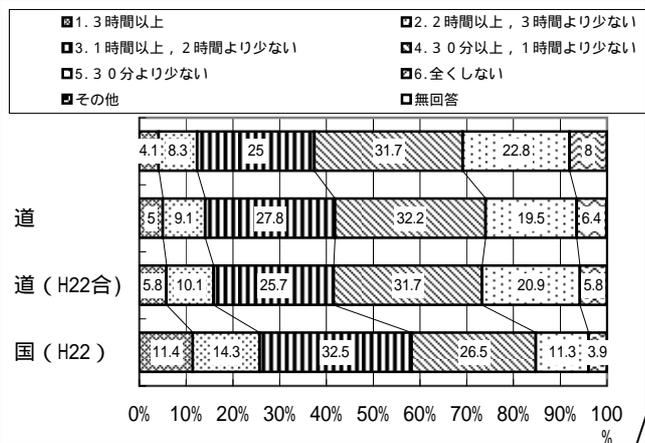
管内の各領域の正答の状況をチャート図で示しています。



(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査に関するグラフ

〔児童質問紙 設問 17〕土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか



各管内の児童生徒質問紙調査の結果から、国や全道、これまでの調査結果等と比較して、改善が見られる質問項目2つ(上段)と、2重線枠で課題がある質問項目2つ(下段)を取り上げて示しています。(学校質問紙も同様に作成しています。)'その他'無解答'の数値は表示していません。

各管内の質問紙調査の結果を、グラフや管内の昨年度の結果から、成果と課題を分析して示しています。(学校質問紙も同様に作成しています。)

児童質問紙から見られる傾向

質問紙項目	年度	割合	傾向
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり1時間以上、勉強していると回答した児童の割合	H23	42.1	平成22年度と比較し、2.2ポイント高くなっており、取組が進んでいる傾向が見られる。全国(平成22年度)では約55%の児童が「1時間以上勉強している」と回答しており、全国平均までは到達していないと考えられるが、改善が図られている。
	H22	39.9	

児童質問紙から見られる状況

管内では、放課後や長期休業日等を利用した補充が宿題などの家庭学習に積極的に取り組むようになって

質問紙調査の分析結果から、管内において重点的に取り組む課題を示しています。(学校質問紙も同様に作成しています。)

児童

管内では、自主的・計画的な家庭学習の取組や国語の授業改善に課題が見られており、家庭との連携による学習習慣の確立や実生活に生きてはたらく国語の能力を身に付ける指導の充実が必要である。